

＼ 行こうよ！ ＼



図書館へ



▲図書館 ホームページ

おすすめ本



食べたいものを食べる、血圧・血糖値は下げなくていい、ガンは切らない、おむつを味方にする…。80歳からの人生、「生老病死」の大きな壁を越えていくヒントが紹介されています。



母が急死し、1人になった20歳の柏木聖輔。空腹に負けて吸い寄せられた商店街の惣菜屋で、聖輔は買おうとしていた最後に残った50円のコロケを見知らぬおばあさんに譲ります。それが運命を変えとも知らずに…。



コロナ禍の命がけの社交、過酷な働き方、段ボール国家…。今ほど心を蔑ろにされている時代はない。それはなぜかを解き明かすとともに、心の在りどころを探ります。心を取り戻すための小さな物語が満載です。

80歳の壁
著 / 和田秀樹

ひと
著 / 小野寺史宜

心はどこへ消えた？
著 / 東畑開人



体が小さいネズミの暮らしは、誰にも気付いてもらえず、踏んだり蹴ったり。一方、体も声も大きいライオンはみんなの憧れ。ネズミはほえ方を教えてもらうためライオンに会いに行きますが…。強くて優しい心を育てる絵本です。



脳神経の病気で入院を繰り返している9歳の少女が、縦約2メートル、幅約1メートルの病院のベッドの上で発見したのは…。札幌の小学5年生前田海音さんが3年生のときに書いた作文を基にした絵本です。

ライオンのこころ
文 / レイチェル・ブライト 絵 / ジム・フィールド 訳 / 安藤サクラ

二平方メートルの世界で
著 / 前田海音 絵 / はたこうしろう

新着本



キラキラ共和国
著 / 小川糸

ハヤブサ消防団
著 / 池井戸潤

tupera tuperaの手づくりおもちゃ
著 / tupera tupera

きみのことがだいすき
著 / いぬいさえ

しあわせのかくれんぼ
著 / 岩根央 絵 / おもとまこ 訳 / 上田怜奈

電子図書館ご存じですか？

本市電子図書館のコンテンツが「九州第一ライオンズクラブ友好会」からの寄附によりさらに充実しました。ぜひご利用ください。

【利用方法】 図書館利用者カードをお持ちの方を対象として、専用サイトにアクセスし、ID（利用者カード番号：数字9桁）とパスワード（生年月日：8桁※2回目以降変更可）を入力するだけで、無料で利用できます。貸し出しは、1人2冊まで、貸出期間は2週間です。
※詳しくは、電子図書館ホームページをご覧ください。

問合せ先 中央図書館 ☎(22)3542

※市公式LINE「暮らし・楽しむ・学ぶ」[図書館]からもご確認できます。

★移動図書館もあります★

詳しくは、右記からご確認ください。



▲電子図書館 ホームページ



▲市公式LINE



▲移動図書館 カレンダー

問合せ先

- 中央図書館 ☎0996(22)3542
- 樋脇分館 ☎0996(38)0009
- 入来分館 ☎0996(44)5311
- 東郷分館 ☎0996(42)0053
- 祁答院分館 ☎0996(21)8755
- 里分館 ☎09969(3)2958
- 上甞分館 ☎09969(2)0031
- 下甞分館 ☎09969(7)0311
- 鹿島分館 ☎09969(4)2211

成年年齢の引き下げに伴い、高校生でも18歳になると未成年から成年と大人の仲間入りをはじめ、今回は、水泳で国内をはじめ、世界で活躍する一人の高校生の思いに寄り添います。

「人のとなりに」とは…

文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人のとなりに」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当ててを目的としています。

人のとなりに

新開 誠也さん



幼い頃に憧れた背中
2008年の北京オリンピックで北島康介選手が金メダルを取った姿に憧れを抱き、3歳10カ月で水泳を始めたという新開さん。
小学4年生の頃、初めてバタフライで全国大会に出場し、それ以来バタフライが得意種目となりました。
現在は、鹿児島情報高等学校に通う3年生で、授業が終わったら、スイミングクラブへ通う毎日です。帰宅するのは、夜の10時半。毎日3時間の練習では、距離にして多いときには約1万メートルを泳いでいます。
バタフライは一番体力を使う種目のため、けがのないように努め、泳ぐ練習に加えて縄跳びなどの基礎的な体力をつけるための陸上トレーニングも毎日欠かさないのでそう。
また、バタフライ以外の3泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ）も練習しており、ベストタイム更新につながるよう意識しています。
水泳は、プールがないと自主練習が容易にできないことや、陸上競技に比べて調子が悪い時などのフォーム確認もしづらいことが大変で、少し手の角度が違うだけでもタイムに影響を及ぼすため、「水の感覚をつかむ」

の苦勞しているのだそう。一方で、「100分の1秒単位のタイムを縮めるために、毎日練習しています。その成果をコーチや仲間たちと分かち合えるのが魅力です」と、水泳競技の素晴らしいさについて話してくれました。
周囲のサポートを力に
もっと速くなりたいという思いが強くなり、中学1年生の秋に、これまで多くのトップスイマーを育てているコーチの指導を受けることに決め、それ以来、コーチの指導のもと、トレーニングに励んできました。けがをしたり、タイムが伸び悩んだりした時期もありましたが、信頼するコーチの的確なアドバイスのおかげで、さまざまな大会で結果を残せるようになってきました。
また、両親に対しても、学校やプールへの早朝・夜遅くの送り迎えなど、大好きな水泳を続けるためのサポートに感謝しているそうです。チームメイトにも、試合前には動画やメッセージで応援をもらっています。
そんな周囲の方々の支えを糧に日々練習に励んだ結果、昨年8月下旬に、ジュニアの日本代表として、国際大会（米・ハワイ）に出場することができました。



また9月に開催された栃木国体では、少年男子A・200メートルバタフライで優勝という優秀な成績を収めました。「目標だった日本一を達成し、友人からの祝福の言葉や、家族、コーチの喜ぶ顔を見ることがうれしかったです。日々の努力が報われた瞬間でした」と笑顔で話してくれました。
一人の大人として
卒業後は大学へ進学し、水泳を続ける新開さん。「将来、世界大会やオリンピックでも活躍したいです。また、成人となったことについては、自分一人ですべて断ることができるが増える一方で、それに伴う責任の重さも感じています。一人の大人という自覚を持ち、行動していきたいです」と熱く語ってくれました。彼の挑戦はこれからも続きます。